2011.4

KAGAYAKU かがやし 32

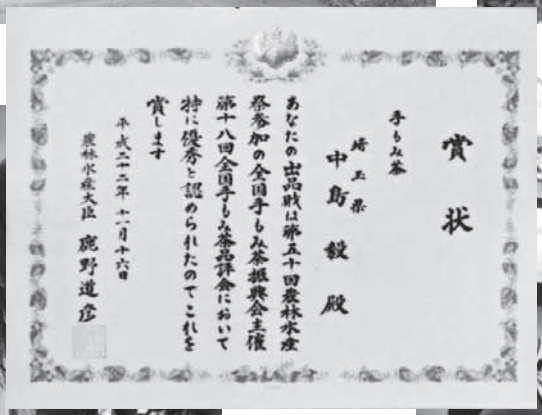
題字：木版 西野一男さん

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー

感動人生！ここに生きる元気な入間人（ひと）

▶神の手

▲丹精こめて



賞状

手もみ茶

埼玉県 中島毅殿

あなたの出品戦は第五十四回農林水産祭参加の全国手もみ茶振興会主催第十八回全国手もみ茶品評会において特に優秀と認められたのでこれを賞します

平成二十二年十一月十六日

農林水産大臣 鹿野道彦

▲努力のあかし

▲手元を見つめる真剣なまなざし

▲さて仕上がりは？

■手揉（もみ）狭山茶で農林水産大臣賞　中島毅（なかじまつよし）さん（31歳）（根岸）

狭山茶に想いを込めて

第18回全国手もみ茶品評会で農林水産大臣賞（全国1位）を受賞された中島毅さん（大西園）にお茶への想いを伺いました。

《仲間は財産》

中島さんは学校の先生を目指していましたが、14代続く茶業を自分で終わりには出来ないと茶業を継ぎました。高校卒業後に静岡の茶業研究所併設のお茶の全寮制学校で学びました。「当初、お茶の学校での生活は大変でした。そんな中で徐々にお茶への愛情が生まれてきたのも事実です。寝食を共にした仲間達は私の財産です」と中島さんは言います。

現在中島さんは、狭山茶伝統の手揉み技法を伝える『入間市手揉狭山茶保存会』に所属し、活動しています。会の目的は、技（わざ）・技術を絶やす事なく伝承する事。メンバーは同業者ではあるもののライバル関係ではなく、より一層良い物を作る為にお互いが教えあい、意見を出し合い日々学習しています。「お茶屋さん同志繋がり、本当に仲が良いんですよね。プライベートでも仲間関係が出来ています」と話してくれました。

又、会では地場産業を地域の方や小さい子に知ってもらいたいとの思いから、入間市博物館や小学校等へ手揉み茶体験学習に出掛けたりもします。「一人の力じゃ何も出来ない。グループでこの大地を守っていきます」と今後を語ります。

《茶の木は家族の一員》

「以前、遅霜の時期に茶の葉を霜から守る防霜ファンが回らなかった時があって、新芽が溶けてダメにした事がありました。新芽には本当に申し訳ないことをした」。と、その悔しさから、霜の時期は夜どおし2時間おきに茶畑を見に行き、家族が病気にかかった時の様に心配されたとの事。

「寒い入間の冬を越すのに共に苦労を乗り越えて、新芽も頑張ってくれている。本当にいとおしいです」と話す中島さんから、お茶への愛情が感じられました。

茶の収穫は年に2回だけですが、お茶の木を育てるのは1年中ずっと。「手をかけただけお茶は応えてくれます。自信を持ってお茶を出したいので、畑には自分自身納得いくまで手間をかけます。『おいしいお茶ですね』と言って貰えるのが一番嬉しいですね」と話す中島さん。

仲間やお茶への温かい想いが伝わってきて、狭山茶の今後が楽しみです。

■全日本愛瓢会（あいひょうかい）会員　西澤久夫（にしざわひさお）さん（高倉）
大きく育ったひょうたんから夢を！感動を！

全日本愛瓢会の第35回瓢箪（ひょうたん）作品展で西澤久夫さん（76歳）は、金賞のNHK福岡放送局長賞を受賞されました。

全日本愛瓢会は秋篠宮文仁親王殿下が名誉総裁をされる会で、瓢箪の作品展としては最大の規模を誇ります。

西澤さんが瓢箪の魅力にとり付かれたのは今から8年前、定年退職後でした。友人に誘われて東京で開催された展示会に行ったのがキッカケ。瓢箪の持つ独特の立体的な芸術性に感動を覚えたのでした。

早速愛瓢会に入会。椎茸栽培をしていた実家の畑を利用して、種蒔き、苗の栽培からスタート。秋の収穫まで、まるで子どもを育てる様に、毎日瓢箪と向き合ってきました。

「剪定を終えて夏に大きくなるんですが、それからが大変。アク抜きや防虫、臭みを取り除いたり、苦労が続きます。それもまた立派な作品にする為の楽しみに変わります」。

▼自宅ベランダでの見事な瓢箪乾燥

▲春3月、種蒔きの季節到来、いよいよ瓢箪との奮戦が始まる

そして大きく育った瓢箪に向き合い、語りかけます。

「人に感動を与える作品に仕上げてやるぞ！」

西澤さんの試行錯誤が始まります。昔はお酒の容器として使われていた瓢箪。今では全国の愛瓢家を通して人々の目を楽しませ、安らぎと感動を与える芸術作品になりました。

その中で、西澤さんの特徴は透かし彫り。以前、さそり座など星座を描いて好評を得ましたが、書道や漢文などを嗜んでいた西澤さんは、中国へ何度か渡っているうちに縁起物と云われる福・壽を使っての「五福壽齢高」を完成させ、受賞したのです。

第35回を迎えた愛瓢会作品展。国体の様に毎年全国各地で大会を開催し、瓢箪工芸を競います。平成25年には初めての埼玉開催。西澤さんも地元の所以（ゆえん）だからこそ、名人位目指して今からモチベーションを高めて燃えに燃えています。

▲受賞作「五福壽齢高」2つの瓢箪に福と壽を各100字透かし彫りにし、中から光を当てて文字を浮き上がらせる（高さ90cm強）

■誰もが楽しめる手織り教室　岩崎廣司（いわさきひろし）さん（68歳）（下藤沢）
いつでも・だれでも・きて・みて・織って！

入間に移り住んで十数年、数々のボランティア活動に携わる岩崎廣司・佳子さん夫妻は、仲間と共に一昨年の秋、障がいのある方もない方も、子どもからお年寄りまで、だれでも気軽に楽しめるNPO法人『くるみの木・ゆいの花』を、武蔵藤沢駅近くの閑静な住宅街に創設しました。

市内で障がいのある方の支援に携わっている時、さをり織りに出会い、「この織物なら誰でも出来る・・・どこかにみんなの居場所を作って、出会い・きずなを大切に、手織りを通して創作と交流の『わ』を広げたい」。と思い立ったそうです。

気さくで面倒見の良い彼の所には大勢の仲間が集まり、お茶を飲みながら、おしゃべりも出来、自由に楽しめるステキな空間が評判を呼んでいます。

機織（はたおりき）機をコンパクトにしたような織機で、色鮮やかな木綿やウールの糸から、マフラーを始め、ベストや袋物など数々の作品が完成していきます。そんな中一日も早く自立しようと、週3回通い、懸命に努力しながら織物に熱中している男性の姿が印象的でした。

どなたにも同じように優しく、温かい眼差しで手を差しのべる岩崎さんは「これからも障がいを持った方の経済的自立や、当たり前の生活をしてもらえるよう支援していきます」と意欲をもやしていました。

▲すばらしい作品の数々

▲さをり織りに挑戦

■野田青和会（のだせいわかい）　滝沢皓史（たきざわこうじ）さん（野田）
未来へ継承する伝統お囃子

「お囃子があるから入間に帰ってくるのが楽しみなんだ」と笑顔の滝沢皓史さん（21歳）は、大学で勉学に励む傍ら野田青和会に入会、自らお囃子をやりながら、母校西武小学校のおはやしクラブで、後輩の指導を精力的に行っています。

「お囃子を通じて、お年寄りから若い世代まで、また性別に関わらず親しく付きあうことが出来るところに魅かれます」と明るく話される滝沢さん。笛や太鼓がお囃子の魅力かと思っていたものの、あまりの違いに聞きなおすところでした。

また後輩達と接する上で気を付けていることは「小学生には楽しさを感じてもらうこと。中学生以上にはできる限り声を掛け、彼らの話しに耳を傾けること」だそうです。

小学生にはどうやって興味を持ってもらうか、多感な年頃の中学生以上へは他に興味が向かないようにと、むしろ技術を教えるよりも《人の繋がり》に心を砕いている姿勢が伺えます。

今後の目標について「お囃子を次の世代にきちんと伝え、楽しい祭りにしていきたい。またその祭りを軸にして、地域の活性化に貢献したい」と話されるに、もの静かな外見ながら語り口に熱いものを感じさせる青年です。

社会の絆の薄さから起こる問題も少なくない昨今、一貫して人の繋がりの大切さを思う若い世代の心に触れ、温かい気持になりました。

お囃子を見るだけで心がホンワカとしてきます。さぞかし彼が先頭に立ち演じるお囃子は、その趣を醸し出してくれるでしょう。

滝沢さんの想いが今後益々広がっていくことを期待しています。

▲獅子舞を演じる滝沢さん

▼太鼓をたたきながら後輩の踊りを気遣う

■入間市文化財研究同好会会長　吉原欣一（よしはらきんいち）さん（扇町屋）
入間市の歴史をたずねて

「郷土の歴史や文化財を記録し、次の世代に引き継いでいくことが、私たちの果たすべき役割の一つと考えています。入間市の若い世代に郷土の歴史を少しでも理解してもらい、なにかの役に立てるよう活動を続けていきます」入間市文化財研究同好会会長の吉原欣一さん（84歳）は静かに語ります。

昭和50年の12月、会の歴史は藤沢公民館で幕を開けました。最初の研究対象は市内に残る板碑。

「市内で一番古い文化財である板碑が、盗難の被害にあっている話を聞いたことがきっかけでした。歴史を伝える大切な財産が失われないよう、受け継いでいかなければならないという気持で、市内のすみずみまで探し歩きました」。

会はそれ以降各種のテーマについて研究を続け、時には市内のみならず県外へも調査の足を伸ばします。

入間市の歴史がときに県外の何かと接点を持っている、それを発見したり調べてみることが醍醐味でもあると吉原さんは話します。平成6年度には会の地道な活動に対し、また平成18年度には本人の熱心な文化財研究に対して『文化ともしび賞』※が贈られました。

昨年同好会は35周年を迎えました、振り返ればあっという間の35年だったそうです。

「歴史に魅力を感じるようになったのは小学校の恩師の影響のように思います。今まで、会の内外たくさんの人の協力で研究を続けてきましたが、一時期60名いた会員も今は20名ほどにまで減ってしまいました。一時は会の存続を考えた時期もありましたが、現在は会の中心になってくれる会員も出てきたことで心配はありません」。

終始熱い眼差しで語ってくれた吉原さん。入間の歴史のともし火が消えないよう、これからの研究に期待しています。

◀最近発行した冊子

※埼玉県内で地道な文化活動を続け、地域の文化向上に貢献している個人、団体に対して県から贈られる賞

▼270回目の例会

川とともに

自然豊かな川を目指して

■不老川流域川づくり市民の会代表　相馬和彦（そうまかずひこ）さん（東藤沢）

「ザリガニがとれたよ！」
「こっちにはメダカもいるよ！」
子どもから大人まで、ズボンのすそをまくりあげて池に入っています。

宮寺にある大森の調節池では年1回大森の池まつりが開催されています。大森の池は、日本一汚れた川で有名だった不老川の水量を調節するためにつくられた人工の池です。

「普段は中に入れない大森の池で、水辺と親しみながら環境や不老川への理解を深めてもらうためにこの催しを始めました。」不老川流域川づくり市民の会代表の相馬和彦さん（75歳）は語ります。

会の発足は平成9年、『きれいな水と流れを確保し、緑が多く多様な生物が棲み、流域住民が親しめる川にしよう』をキーワードにスタートしました。

当初は10名の会員で始まったこの会も、現在は70名近い会員が在籍しています。大森の池まつりをはじめとして、不老川やその流域の環境保全、また不老川に親しむ催しを季節ごとに行っていて、メンバーはそれぞれ無理のない範囲で、自由に活動に携わっています。

「かつて、その水が米とぎに使われるほどきれいだった川から、生物がその姿を見せなくなって三十数年。周辺の住民を始めとして、不老川をきれいにしようとする動きが高まり、近年魚の生息が確認されるようになりました。ですがまだ水量や水質の問題など課題は少なくありません。多くの生物が住む、自然豊かな不老川を目指して今後も活動していきます」。

カヌー遊び、魚とり、水鉄砲づくりに目を輝かせている親子の姿に、将来の明るさと確かさを確信し、目を細める相馬さんでした。

▲そうそう上手いぞ

▼カヌーは楽しいぞ

◎本紙「かがやく」編集委員大募集！

生涯学習やまちづくり活動、編集活動に興味のある方で、ボランティアとして活動していただける方ならどなたでもOK。
年齢・経験は問いません
活動日：原則週1回
活動場所：市役所（会議）、市内（取材）
活動内容
①取材対象の情報収集
②取材及び企画編集作業
③冊子の配布に関する作業
④生涯学習フェスティバルへの参加

◎「いるま学びの場」生涯学習サークル・教室情報募集！

「何か始めたいなぁ」とお考えの方、「アレ習いたいけど、何処に行けばいいんだろう」とお嘆きの方。市では、公民館等の公共施設で活動しているサークルやお近くにある教室の情報を取りまとめ、冊子や市公式ホームページから情報を提供しています。

そこで、下記に該当するサークル・教室の情報を募集しています。

対象
☆生涯学習に関わっていること。
☆入間市内に活動場所があること。
☆一般市民が参加できること。
☆年間を通じて継続的に活動していること。
☆特定の政治・宗教・悪質な商法等に関わっていないこと。

※冊子発行は市教育委員会と入間市生涯学習をすすめる市民の会で行っています。

このコーナーに関するお問合せは入間市生涯学習課（下記）へお寄せ下さい

◎編集後記◎

◉明るく、楽しく、元気に活動されている方々を取材できることに、喜びを感じております　（H）

◉文をまとめることの困難さ、限られた文字数でその人となりを紹介することのむずかしさ、自分の力量不足を痛切に感じている　（I）

◉かがやくに登場される方にお話をうかがうと、今までの自分の生き方に反省の毎日です　（MK）

◉十人十色、色々な顔があってこその人生。人それぞれの生き甲斐とは？生涯学習とは？日夜そんな事を考えています　（N）

◉入間の若人がひたむきに頑張る姿・人や物を大切に思う気持ち。とてもかがやいています。入間人に乞うご期待！　（SM）

◉人に歴史有りというが、今回も貴重な歴史に触れ、共感もし、感動することができました　（ST）

◉同行取材で知った事。現在の生涯学習活動の原点は、小学生時代の恩師の影響によるそうです。義務教育から生涯〝楽〟習へ　（Y）

企画編集：「かがやく」編集委員会
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ　入間市教育委員会生涯学習課
事務局　〒358-8511　入間市豊岡　1-16-1
TEL 04-2964-1111（内線4123）FAX 04-2964-4841

PRINTED WITH SOYINK R100　編集委員（五十音順）　猪股克己　齋藤美恵子　柴原武　西垣寿夫　橋本敏子　森邦夫　諸井和江　山田和子